

校長先生の部屋だより

哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

今日は3年生の男子が何と十数名も訪れました。

—テーマ、持ってきた？

A：戦争についてです。人は口があるのに何故武力を選ぶのか。

—じゃあ、それにしよう。

B：勝ち負けがはっきりしているからだと思います。

—論争でも勝ち負けはあるよ。

B：相手を殺してしまえばもう向かってくることはないけれど、生きていれば言葉はしゃべることが出来ます。

C：対立は絶対あるから・・・

—ちょっと待って！人間ってわかり合えないの？

C：人間は同化と排除を避けることが出来ません。しかも武力に対しては言葉は役に立ちません。言葉による説得には限界があります。

D：人間は正義を確立するために戦争をするのだと思います。

B：僕は人間も動物で、言葉をもつより先に本能があって、それで手を出すのだと思います。動物は生きるために争います。人間も同じです。経済的に生き残るために戦争するのも動物が生きるために争うのと同じです。

—人間の争いと動物の争いは同じだと。

E：僕は違うと思います。ライオンはウサギを食べるために争いますが、人間はそれとは違うと思います。

F：人間には理性と感情があります。

—動物にも感情があるように見えるけれども、あれは本能で行動しているだけで、人間が言うところの感情ではない？

D：さっきも言ったけれど、人間は正義のために戦うんだと思います。

—その正義っていうのに例えば宗教やイデオロギーがあるね。資本主義だとか共産主義だとか。例えば異なる宗教の間でわかり合うと言うことはないのだろうか。

G：その宗教で、自分が自分であるというアイデンティティーを得ているから無理だと思います。

H：人間は生きる意味が分からないから宗教を信じるんだと思います。

B：結局、宗教も自分が生きるためだと思います。神に従わなければならない、そうしないと罰を受けるといった・・・だから人間も動物も変わらないと思うんです。

—じゃあ、君たち人間は戦争を避けることが出来ない、そう考えるの？でも戦争は悲惨だよ。こんな愚かなことをどうして続けるの？

I：妥協できなければ仕方ないと思います。戦争しかない。

—でも寛容ということがあるね。でも「寛容」というのも難しいんだ。もしある人が「寛容」を唱えているところに、「不寛容」な人が現れたら「寛容」な人はどうすればいいんだろう。「不寛容」を許さなければ寛容ではなくなるし、かといって「不寛容」を許しても寛容はなくなる。結局争いは避けられない、ということになるのかな。でもやはり戦争は悲惨で愚かだ。どう考えよう。

J：みんな宗教を一つにして、同じ生活をすればいいかもしれないけれどそんなことは不可能だから・・・

—もう時間だ。人間は戦争を避けられず、しかし戦争は悲惨だ、この矛盾をどう考えるか。また来て下さい。



pixta.jp - 42141266